

輝いている人を紹介します

# まちのキラリ

創作漆器職人

木彫・漆工房 一心堂

木内 啓三郎 さん(梁川地域)

伊達市に移住して、手作りで木材の良さを引き出す漆器職人の木内啓三郎さん。幼い頃から工作などが大好きで、作る前のアイデアを考えるのが楽しいと話す木内さんに、木彫に込める想いを伺った。



## 木彫との出会い

こどもの頃から、工作などが好きでした。中学校を卒業後、10年ほどさまざまな職業を経験した後に、職安で鎌倉彫を見つ、「これだ」と思い、その会社に飛び込みました。そこでは、同じ製品を作って、デパートなどに納品していました。6年ほど勤め、物が売れていた時代でしたが、このまま同じ製品を作り続けるだけでいいのかと疑問に思い独立しました。それは、職人としては遠回りだったかも知れませんが、多くの経験によって視野が広がったから、決心することができました。

## 自由な発想が楽しい

独立後は、下請けの仕事をし



## Profile ●きうち けいさぶろう

1946年生まれ。神奈川県出身。中学校卒業後、10年ほどさまざまな職業を経て、鎌倉彫に出会う。鎌倉彫の会社を6年ほど勤め独立。自然豊かな地方で制作をしたいと、会津地方に拠点を構えたこともあったが、保原町の知人の紹介で2002年に梁川町に移住。現在は、木彫制作の傍ら体験教室など、楽しい時間と木材の良さを伝える活動にも力を注いでいる。

ていしましたが、変化を加えるのが好きで、自分のアイデアで製品を作る方にシフトさせました。新しい製品を生み出すには、「作る前」が大切で重要です。アイデアを考えるのは大変だけどおもしろいし、そこが一番好きです。現在は、鎌倉彫にこだわらず、いろいろな技法を用いて、手づくりならではの味わいにこだわっています。

## 木彫でいい関係をつくりたい

伊達に移り住んで感じたことは、町内会の集まりの後に家に寄ってくれたり、オープンな感じで接してくれることです。それは、養蚕からくだもの産地へと時代に合わせて変化させる意識や雰囲気があるからではないでしょうか。



木材の良さと、手作りならではの優しさを感じられる木内さんの作品。

でも、東日本大震災、そして新型コロナウイルスによって、元気や活動がなくなってしまうと感じています。歳を重ね、時間にも余裕ができたので、これまでの地域の活動のように、いい方向に進んでほしいと願いました。それは初めて出会う人と木彫を通して、いい時間、いい関係を築くことができました。いなとの思いからです。

今後は、こういった活動を続け、作るのは大変だけど楽しいという木彫づくりを味わってほしいと思います。そして、日々同じ時間はないので、その時間が楽しくなるよう向き合ってください。